



2025-2036 伊丹市文化振興ビジョン 概要版

出会いと対話と文化芸術と。
なにかが起こる、わたしのまち



令和6(2024)年10月

伊丹市

ビジョンの理念と取組の方向性

文化芸術は、人々の創造力と感性を育み、豊かな人間性を涵養します。また、文化芸術は、人と人の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉です。さらに、誰でも参画でき社会的孤立を増長させない社会包摂(※)を図ることも文化芸術の役割です。本市では、「伊丹市の文化振興施策にかかる指針」(H30)により、「対話を通して楽しみ広がる～文化芸術がそばにあるまち～」を基本理念として、文化芸術が身近なものとして生活の中に根付くことを目指してきました。

一方で、我々は、コロナ禍により人とのふれあい、交流、対話が制限され、行動変容を迫られる困難な状況を経験しました。スマートフォンやSNSの発達により、同じ興味や関心を有する人やコミュニティとつながりを持つことが容易になりましたが、異なる価値観をもつ他者の排除や分断が生まれやすくなっています。そのような中、文化芸術の意義と価値に向き合い、心豊かな市民生活の実現と市民が誇りと愛着を持てるまちづくりを目指して、本市の文化芸術の振興に関する基本的な方向性を示す「伊丹市文化振興ビジョン」を策定します。

基本理念

人間関係が希薄になりつつある昨今、文化芸術が他者とのゆるやかなつながりを育み、豊かな対話を生み、わたしの中に、そしてわたしのまちに“なにか”が起こる。そんな“可能性”に想いを込めて、基本理念を定めました。

出会いと対話と文化芸術と。 なにかが起こる、わたしのまち

3つの方向性

本ビジョンの対象となる文化芸術はその範囲が多岐にわたることから、本市が振興する文化芸術の方向性を大きく3つに分けて示しました。

市民が楽しむ 文化芸術



地域に連携と循環を促す 文化芸術



一人一人から生まれる 未分化の表現としての 文化芸術



10の基本方針

3つの文化芸術を通して異なる価値観・他者・新しい自分に出会うことを目指し、基本理念を実現するため10の基本方針を定めました。

1. 鑑賞型や体験型の文化芸術を提供するとともに、他者とのゆるやかな関係性や対話を創出す文化芸術を推進します。
2. 文化芸術を通じた行政分野の横断的なつながりを推進するとともに、新たな結びつきの創出を目指します。
3. 小さな取組が相互に影響し合い、連携と循環が生まれる環境や仕組みの整備に取り組みます。
4. 制度や条件を整えすぎるのではなく、それぞれの創意工夫が発揮できる“余白”を残すことを大切にします。
5. 対話や協働の創出を目指して、市民がチャレンジしやすい環境や仕組みの整備に取り組みます。
6. 分からないことや曖昧なことにも価値を見出し、“答え”を求めるだけでなく“問い”を生み出すことも大切にします。
7. 生きづらさを抱える人や既存の制度が届かない人に対して、文化芸術を通じた関わりあいや創造的行為の場を提供します。
8. 異なる立場の人たちの間に対話が生まれる文化芸術を推奨します。
9. 異なる立場の人たちがともに創る文化芸術を推奨します。
10. 市民のチャレンジに対して伴走支援を行い、時にはともに実行します。

具体化に向けて ～19の動詞～

基本方針を踏まえた取組を具体化するために 19 の動詞を用意しました。これらの動詞は、10 の基本方針に沿った事業を実施する際に意識すべきことをキーワードとして端的に表現したものです。事業を企画立案して実施するにあたっては、複数の動詞に当てはめる（混ぜる）ことによって、1つの事業が複合的な価値や意味を持ち、更なる事業効果が期待されます。

19の動詞が“混ぜる”イメージ図

[感受]の動詞

- 受けとめる
- 考える
- 参加する
- 驚く

[対話]の動詞

- 話し合う
- ともに創る
- 相談をする/うける
- しめす

[連携・循環]の動詞

- 結ぶ
- とびこえる
- めぐらせる

[余白]の動詞

- 余白を作る
- 未完を創る
- 遠回りする
- わからなさを楽しむ

[育成]の動詞

- 整える
- 試す
- 伴走する
- 実践する



計画期間

12年間(2025年度～2036年度)

ビジョンの推進のために

1. 推進に向けた考え方 ～関係と過程の価値の定量化～

本ビジョンでは、事業の「結果」に加え、小さな取組から生まれる対話やつながりといった「関係」や「過程」も大切にします。本ビジョンの推進に向け、関係や過程の価値を定量化し、既存の評価に加えてこれらの価値を付加することで、一つ一つの取組の意義を高めていきます。このような事業価値の定量化の仕組みを構築する中で、ビジョンの指標として過程の価値を測る指標を設定します。

結果の価値 事業を実施したことによって生まれた「結果」を定量化

項目例	内容
参加者数	公演日の来場者数。参加型の公演や講座等への参加者数など
活動ビュー数	事業の宣伝や紹介記事のビュー数(インターネットの閲覧数等)など

関係の価値 事業に関わった個人や団体との関係性、事業実施から派生した新たな活動といった「関係」を定量化

項目例	内容
運営参画者数	事業の主催者以外の関係者で、企画や運営に関わった個人や団体の数など
参画者の領域数	事業の企画・運営に関わる人の職域、専門分野の数など
活動の派生数	事業実施後に、新たな事業や担い手(企画実施者)が創出された数など

過程の価値 事業実施に至るまでの相談や話し合い、事業実施中に発生する対話といった「過程」を定量化

項目例	内容
相談件数	事業実施において、公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団等の専門機関が受けた相談の数など
サポート事業数	事業実施まで、または事業に関する直接的な関係者にたどり着くまでの伴走支援の取組数など
対話時間	人数×時間で導き出される「対話」の量など

※上記項目は一例です。適宜これらの価値を付加することを通じて事業の意義や効果を検証していきます。

2. ビジョンの指標

本ビジョンにおける取組がどのような効果をあげているかを測る指標は次の通りです。今後、検証・評価を踏まえた施策の改善や見直しにつなげます。なお、12年後の目指す値は、伊丹市を取り巻く社会情勢等を勘案しつつ、進捗状況をみながら令和10(2028)年度に改めて設定します。

指標		現状 (令和5年度)	令和 10年度	12年後の 目指す値
結果	この1年間に文化芸術を鑑賞したことがある	18歳以上	65.5%	69%
		こども世代	75.8%	79%
	この1年間に文化芸術の活動を行ったことがある	18歳以上	19.3%	22%
		こども世代	38.0%	41%
市内文化施設の年間来館者数		407,776人	410,000人	令和10年度に設定
関係	他分野と連携した取組数 (観光、まちづくり、国際交流、福祉、 教育、産業等と連携した事業数の合計)	—	新規10件 (延べ件数)	
	活動が新たな取組へと派生した事業数	—	新規5件 (延べ件数)	
過程	(過程の価値を測る指標)	令和7年度以降、 検証を踏まえて設定		
総合	伊丹市の文化芸術に関する環境への総合的な満足度	41.1%	44%	